

## 令和5年度 第2回 四日市市立図書館協議会会議要録

1. 日時 令和5年9月26日(火) 午後3時00分～午後4時30分
2. 場所 四日市市立図書館 3階 会議室
3. 出席者 岡田博子委員、加納光委員、竹内裕子委員、竹下すま子委員、  
柘植敏生委員、中井孝幸委員、樋口雅也委員 (五十音順)  
図書館:堀田館長、川崎副館長兼奉仕係長、岡管理係長、生川奉仕係員
4. 欠席者 福永智子委員、諸岡篤委員
5. 傍聴者 1人
6. 議題
  - (1) 電子図書館サービスについて
  - (2) 新図書館について
  - (3) その他
7. 資料
  - 資料1:「よっかいち電子図書館」サービス開始について
  - 資料2:市民ワークショップ①NEWS LETTER
  - 資料3:市民ワークショップ②NEWS LETTER
  - 資料4:第3回ワークショップ(子育て中の方優先)の開催結果概要  
「フロア断面図の中間検討案」

### (1)電子図書館サービスについて

事務局より、資料1、リーフレットを用いて説明

委員:電子書籍の貸出冊数について。紙ベースの貸出可能冊数は10冊、電子書籍は3冊となっているが、電子書籍の数が少ないのは何か制限があるのか。

図書館:電子書籍の蔵書は紙の本に比べると圧倒的に少ないので、少し制限している。また、電子書籍の場合、購入したコンテンツについて、無期限閲覧可能なものや、貸出回数上限があるものなどさまざまである。貸出回数上限が設定されている電子書籍については、借りたけれども読めずに返却されるともったいないため、貸出点数を3点としている。おおむね、他の自治体でも電子書籍の貸出冊数は、紙の本より少なく設定しているようだ。

委員:児童書は同時に複数人で利用可能とのことだが、一般の雑誌や書籍では他人が借りている場合、予約するという形か。

図書館:今回ご用意した電子書籍には雑誌も含まれており、一定人数までは同時閲覧が可能である。読み放題パックなどを除いて、基本的には誰かが借りている場合は、予約という形になる。

委員:電子書籍はデータを買う取るものか。それとも数年おきの更新が生じる形態か。

図書館:無期限のものもあるが、購入から2年間利用可能という縛りや、貸出回数上限が52回という制限があるものもあり、52回借りられると予約が入っていても読めなくなる。電子図書

館を導入している図書館はたくさんあるが、コンテンツ数を維持していくことが難しいと聞く。今回、選書するにあたっては、無期限閲覧可能なものから優先的に選書していった。しかし、どうしてもそれだけでは魅力あるコンテンツとはならないので、契約期限のあるものも選書した。

委員：電子書籍のサービスをスタートしてしまうと元には戻れない。常に紙の本も電子の本も両方も購入し続けなければならない。スタートは 20,000 点以上と数が多いが、様子を見ながら蔵書の個性等を考えていっていただければよいと思う。電子図書館を利用するための手続きとして、貸出券について教えてほしい。貸出券の更新は 3 年ごとに必要とのことだが、小中学生の ID はどうなっているのか。

図書館：小中学生については、中学 3 年生の 3 月末日まで有効な ID、パスワードを付与しており、それ以降は利用できなくなる。中学校を卒業したら、自分自身で登録するなど個人で利用してもらおう。逆に言うと、現在、すでに図書館の有効な貸出券を持っている小中学生については、学校で付与されたものと、自分の貸出券とで、ID を 2 つ付与されることとなる。

委員：今後、どのような方が電子書籍を利用するのかを知りたいと考えている。現在、図書館を利用していない人たちが使ってくれる、という予想もあるが、個人的には、来館して紙の本を読んでいる人が、紙と電子の両方を選択肢として使うのではないかと考えており、図書館との在住距離は関係がないのではと予想している。紙の本と同様に、地区ごとの電子書籍貸出冊数を分析ができれば面白いのだが。現在、全国どの図書館も分析してないので、四日市から始めたらどうか。

図書館：当館の電子図書館システムは、通常の図書館システムと連携していないため、地区別貸出冊数の算出はできない。紙の本を利用している人から、電子図書館の利用について多くのお問い合わせをいただいております。ご指摘のとおり、紙を利用していた人が、電子も利用する、という傾向にあると思う。そのため、私たちとしては、四日市市民全体を対象に、図書館を利用していない人への PR が重要だと捉えている。今後 PR に力を入れつつ、蔵書の利用状況を確認しながら追加で蔵書を購入していく。

委員：児童・生徒の利用者の学校名は分からないか。

図書館：学校名は把握できるはずである。他市のデータを見た際に、昼休みの読書が増えていることや夏休みは減る、登校時は朝読等で利用されている、といった情報がわかったので、今後どのようなデータを取っていくか考えたい。小中学生については、物理的な距離や保護者の都合で図書館に連れてきてもらえない児童・生徒がいるので、まずは小中学生の子どもたちに読書の習慣を今以上につけてもらい、いずれは私たちの顧客になってもらうというのが最大の願いである。まずは本を定期的に読むことや、自分の興味を広げてもらうことを進めていきたい。

委員：小学生までは多くの本を読むが、中学生になると読書率が極端に下がる。しかし、図書館から遠く離れた中学校の生徒ほど学校図書館の本を読んでいる傾向がある。この要因として、物理的に図書館に行くことが難しいということが想定される。電子図書館で小中学生がどのような読書行動を行うか分かれば、今後力点を置くジャンル等も分かってくるかもしれない。

## (2)新図書館について

委員:ワークショップで提示した A 案 B 案の違いは何か。

図書館:例えば、A 案は吹抜けがあるものにし、B 案は吹抜けをなしにして、吹抜けがあった方がよいか、ない方がよいかといったことを比較できるようにしている。A案B案どちらがよいか、ではなく、A 案のいいところ、B 案のいいところ、どちらも嫌な場合はどのような案がよいかといったことを議論してもらった。例えば、地域資料と書いてあるが、これからは映像を残してはどうか、というどちらにもない意見をいただいたケースもあった。

委員:中間検討案はとてもよい。読み聞かせの立場から、子育て世代の低層階は外せない。賑やかなエリアと一緒に、声を気にせずに子育て世代や子どもたちが図書館を利用できると良いなと思っている。バリアフリー資料はエレベーターに近い位置に配置するとよい。図書館が出来た時、市民の皆さんが素敵だなというようなものが建ってほしい。

委員:私も下から上へ、動から静へという考え方はとても良いと思う。中高生のエリアについて、彼らが要求しているのは、本よりも勉強できる場所である。どこか勉強できる場所を探している状態なので、その様な場所は外すことはできない。大学にラーニングコモンズがあるように、話し合いができる場所が必要だ。一方、大抵はイヤホンで自衛しているものの、音をとても気にする子どもたちもいるので、様々な部屋を用意するとよい。ただ、それらの区画面積が多くを占めると書架エリアが狭くなることを心配している。現在の図書館にある本は全て自動書庫に行くのか。電子書籍との兼ね合いはあるかと思うが、今後の蔵書の計画や構想等があったら聞かせてほしい。

図書館:中高生の居場所確保により蔵書スペースが狭くなる懸念はある。学習スペースの要求には応えていきたい一方で、現図書館よりも広くなることで図書にたくさん触れることを期待するといった意見もあるため、そのあたり気を付けていきたい。自動化書庫は後からの増設が非常に難しいこと、もともとの基本計画の中にも自動化書庫を作る話があり、作っておくことを考えている。駅前には、自動車文庫の車両 2 台分のスペース確保が難しいということから、自動車文庫用の図書を新図書館に持っていくことはしないのがほぼ確定している。基本的には現図書館の蔵書は新図書館に全て移すことが可能だが、果たして全部を持っていくべきかは検討の余地がある。例えば、書庫で保管はしているが一般利用者に提供していない資料等は自動車文庫用の図書と一緒に別置の可能性もある。すべての図書を持っていくキャパシティがあるが、実際に持って行くか否かは今後の検討となり、蔵書規模は今後詰めていくことになる。

委員:新図書館では長時間滞在が多くなると思うので、食べる場所など、長時間滞在への配慮をお願いしたい。また、小中学校と図書館が連携し、児童・生徒が図書館に来る際の利用できる場所があるとよい。

委員:学級訪問スペースを作るケースがある。1 クラス 30 人くらい来館するので、一旦どこかのエリアに入ってもらい、そこからフロアに散ってもらう。学級訪問スペースを利用しない日は、他の目的に使う。

委員:そのようなものがあるとよい。また、外観も中身も、四日市ならではの特徴や特色がある素敵な図書館になればよいと思う。

委員:障害者への取組があれば教えてほしい。

図書館:先日、政策推進課による、障害者団体との話し合いの機会があり、図書館からは副館長が出席した。その他に、ろうあ福祉会の方が直接図書館に来館され意見をいただいた。従来、バリアフリーというと段差解消や音訳・点訳を主流として捉えていたが、例えば、新幹線車内の電光掲示板のニュースのように、何かが生じた際に情報を流すと聴覚障害者も瞬時に情報を得ることが可能なため、設置を検討してほしいという希望があった。聴覚障害者の方のなかには、何も話さずに本を借りていく方もいる。視覚障害の方は明らかに利用する資料が異なるが、聴覚障害の方に関しては、従来、特段の配慮は設けていなかった。また、補聴器や磁気ループは音が感知できる人にはよいが、全く聞こえない人には意味がないといったことも、教えていただいた。今後、定期的に意見交換したい。色に関しても、透明のアクリル板は奥行きが分からないといったことも聞いているので、様々な立場の方から話を聞き、決めていきたい。

委員:障害者団体に対するヒアリングがあるのか。

図書館:詳細は決定していないが、家具を入れる段階等でどのようなものが使いやすいかを様々な団体に聞いて導入するケースがあると聞くので実施したいと考えている。また、前回の意見交換は政策推進課が主であったが、今後は図書館内の導線等で意見を聞く機会を得られればと考えているので、ご協力をお願いしたい。

委員:今後もワークショップを重ねられると思うが、ぜひ高齢者への配慮も。現在の書架は、下部分の本が取り出しにくく、高齢者には腰がきつい。視野の範囲も高すぎず、低すぎずになるとよい。駅の案内板が、かつては上の方にあったが見やすい位置に変わっている。ぜひ、高齢者への配慮も考えてもらえればと思う。

委員:ワークショップを実施しつつ意思決定をするのはとてもよいことなので、継続をお願いしたい。一方で、意見としてなかなか出てこないこともあると思うので、その点にも配慮してもらいたい。今回 1、2 階と3階くらいまでは非図書館ゾーンであり、その上に図書館ゾーンがある複合施設となっている。図書館は図書館、他施設は他施設というようにはせずに、一体的につながりながら運営すべきだと思っている。せっかく1階、2階、3階に違う施設が入っているので、このような他の施設とも連携しながら四日市の図書館の魅力を発信してほしい。日本図書館協会施設委員長がマッシュライブラリーと言っていた。それはマッシュポテトの様に混ぜてしまう図書館のことである。様々な機能を融合させ、施設全体を図書館だと言ってほしい。下層階は子どもで上層階は静かなゾーンという、音のゾーニングはとてもよい。うまくグラデーションとしてつなげてほしい。ポイントは様々な世代が読む雑誌だろう。雑誌を置く場所には様々な人が集まってくるので、雑誌と新聞の配架位置は切り分け、雑誌は 4 階か、さらに下のゾーンのところに様々な世代を招き入れるようにできればよい。

書庫の考え方について。先ほど話題になった、席数確保によって所蔵冊数が減少することはある。現在、多くの図書館では開架書架と閉架書庫の間くらいに位置づけられる公開書庫を

作っている。これは、書架の幅が、車椅子は通ることができるが、すれ違いは難しいといった程度の間隔とし、ここに図書を大量に配架することで閲覧スペースを確保する。書架が高いと本が取り出しにくいいため、開架の書架の高さはなるべく低く抑え、公開書庫は書架間のピッチを狭めるといった、メリハリを利かせたレイアウトにより、ゆとりのスペースを確保するとよい。この蔵書規模では、公開書庫が必要ではと考える。最初から床荷重等を想定しておけば、当初は壁面しかないエリアに公開書庫を後から追加することも可能。

8階の事務エリアについて。眺望がよいのであれば、一般の方も入れては。オランダのアムステルダム図書館は、9階の最上階にレストランとテラスがある。8階までである図書館は国内で聞いたことはないので、もし眺望がよければ、少しだけ、一般の方に開放するのもよいと思う。

エレベーターとエスカレーターの話もあり、エスカレーターは費用が掛かるため、全フロアに設置するか、移動の多い階だけエスカレーターにして、他の階は階段かエレベーターで移動してもらうという手段もある。愛知県安城市図書館アンフォーレでは、4から5層の吹抜けがある。隣の駐車場からは2階から図書館に入ってくるので、人の動線は1階と2階の2つがある。2、3、4階が図書館で、とても大きな吹抜けを持つ。ほとんどの利用者は大きな吹抜けに沿って作られた階段をゆっくりと上がっていく。エレベーターを整備することは当然だが、吹抜けを効果的に使うと利用者は階段を昇って行ってくれる。建築的には上階に上がってもらうことは難しいが、うまく設計していただきたい。

学習席について。どの大学のラーニングコモンズでも、わいわいがやがやとしている中で、7割の利用者が単独利用である。賑やかな空間でも1人で利用するので、キャレル席からグループ席まで、様々な種類の席を散りばめておいた方がよい。みんなが頑張っているから頑張ることのできる人もいる。また、本のすぐそばで一人で読みたい人もいる。いろんな席を用意してもらえるとよい。私が家具の設計を行った亀山市立図書館がオープンしたので、是非見に行ってみてほしい。

委員:4階に子育てを設置し、動から静へ、下から上へというのは理想的だと思う。吹抜けの話が出たが、開放的なプランの方が魅力的だ。参考に伺いたいのだが、電子書籍の流れはこれからどんどん加速し、電子書籍の割合が紙の本と逆転するのではないかという思いもあるが、その辺りはどうなのか。

委員:電子書籍は買い切りでなければ、その使用料を払い続けていくこととなる。今ある蔵書の約50万冊を全て電子書籍に置き換えると、その更新料だけでも莫大の費用が掛かる。そこで、ハイブリッドで選択肢が増えるというくらいの方がよいのではないか。紙の本で読みたい人もいれば、電子書籍で読みたい人もいる。紙の本だとなかなか順番が回ってこないが、電子書籍では早く回ってくるのであれば、そちらで借りることが出来るだろう。絵などを拡大したい時には電子書籍の方がよい。それは利用者が選択することであるため、今後50年程はハイブリッドで行くのではないか。ただ、電源が入らなければ読むことはできないという脆弱性が電子書籍にはある。紙と電子では、しばらく紙の本の方が多いと思う。やはり、図書館の役割は何かという話になる。図書館は、地域の歴史や文化を保存して、記録してそれを編集することが大事

だ。そして編集したものを地域の人々と共有する。その編集作業が可能なのが図書館である。取捨選択し、見やすく加工することが図書館の役割だ。四日市市立図書館のコレクションは貴重なものであろうため、編集し共有する形にすることが図書館の仕事である。そこが本屋と図書館の違いである。編集行為が出来れば図書館はなくなると信じたい。

委員：交流スペース、イベントスペースはとても大事だ。託児を交流スペースで補うことが出来な  
いか検討してほしい。電子書籍が入るというタイミングで新しい図書館が建つというのは大事なことだ。本の文化には歴史があり、それを伝えて行くのは図書館の役割だ。紙媒体をきちんと置くことには意義がある。電子書籍が出るから新図書館は不要であるといった議論にはならないよう、立派な図書館を建ててほしい。

図書館：3 階の交流イベントスペースに託児を希望する意見をいただいております、政策推進課には伝えてある。イベント交流スペースに託児スペースがあると、図書館利用だけでなく、子連れでもイベントに参加しやすくなる。また、保護者が子育てから一時的に離れて自分の時間を持つことは非常に重要であり、規模感は不明なものの、託児は実施したい。

図書館の電子書籍は、一般の方が購入するそれとは異なり、ベストセラー小説が優先的に電子書籍化されるかという点、そうでもない。今後、電子書籍化が進んだとしても、現在のコレクションである蔵書を電子化することともまた違う。私どもは長い歴史とともにそれなりによい本を揃えているという自負もあるので、そのあたりは抑えておく。その上で、電子書籍の利点である、視力が低下しても読んでもらえる、音も聞ける、学校の図書室にない本を提供できるなどを活用し、様々な形で利用してもらえると考える。電子図書館は新たな選択肢として分館的存在として運営していきたい。今回、20,700冊を導入するにあたり、1冊1冊本の中身をチェックし、なるべく長く使える本を入れるようにする、経済や旅行本は定期的に新しくなることが望ましいことから、期限付きのものを導入するなど工夫を行った。他の図書館と比較すると契約無期限の電子書籍を多く導入できたのではないかと。学校図書館でも用意ができないようなライトノベル等については司書が選書して、無駄なものを購入しないように重複確認も行い、そこそよいラインナップの電子図書館になっていると考える。一方で、紙の本もかけがえのないものだと思うので、そちらはそちらで図書館として頑張りと、電子書籍も新しいものが提供できるように頑張るので、応援をお願いしたい。

委員：新図書館ができれば、現図書館を解体するというニュースを見た。現図書館は駐車場からすぐアクセスができることや自動車文庫の発着場のステーションとしての機能を、とも聞いていたので心配している。説明をお願いしたい。

図書館：現図書館の在り方については、まず、昨年の夏の議会で説明した。駅前に図書館を建設するにあたり、新館に繋がる道が狭く、移動図書館車が入っていくのは難しいことと、移動図書館車の荷捌きの場所を1階に設けることが困難であることから、新館に移動図書館車の発着地点を設置することは難しいことを伝えた。そのころは児童向けフロアの位置、規模が不明であった。また、図書館は築50年を経過しているが、長寿命化の工事が無いことから、今後、使用しない部分を壊し、自動車文庫や駅前の新館では不足する児童室機能を現図書館で担当

するという話があった。ただ、議論が進んでいく中で、児童室だけで新館に1フロア確保できるのであれば、現図書館の児童室の3倍以上の面積を確保できるであろうこと、駅周辺のコインパーキング利用時の無料券発行など詳細は決まっていないが、政策推進課の方で駐車場のことについても詰めてもらっていることから、現図書館を減築するのではなく、自動車文庫の拠点を他地区に作ってはどうかという代替案が出ている。減築する費用が大きいというのもある。昨年夏と比べると、別の案が2つほど増えており、採用される案によってはこの建物を壊すこととなる。つまり、子育て機能を現図書館で引き継ぐことはなくなり、新図書館にワンフロア全部、児童・子育てエリアとして確保できる見込みである。決定ではないが、案として提示されたものが新聞報道されている状況だ。

委員：新館でも子連れでゆっくり滞在したいと思うので、なるべくアクセスのよい、雨に濡れない方法を考えて頂きたい。また、自動車文庫は必ず残して頂くことをお願いしたい。

図書館：自動車文庫については、現図書館が発着場所ではなくなったとしても、必ず場所は確保して続けたいと考えている。今も年間6万冊程度利用があるのと、毎月市内を91箇所巡回しているので、自動車文庫のサービスを中止する選択肢は我々にはない。発着場所が移動したとしても必ず続けていきたい。

以上